日本心臓財団
ハートニュース
Heart News
企画 日本循環器学会 教育研修委員会
発行 日本心臓財団

あなたにも使えるAED（自動体外式除細動器）

監修 三田村 秀雄 東京都済生会中央病院 副院長

AEDで心臓突然死を救う！

救命の主役は“あなた”です

いつ、どこで起こるか分からない突然死。日本では心臓病が原因の心臓突然死によって、毎日約百人が命を落としています。心臓突然死の多くは、「心室細動」という危険な不整脈によって起こります。心室細動になると、心臓が細かく震えた状態になり、血液を全身に送り出すことができなくなります。心室細動の唯一の治療法は、心臓に電気ショックを与え、不規則になった心臓のリズムを正常に戻す「除細動」です。除細動が1分遅れるごとに救命率は10%低下するといわれ、いかに早く除細動を行うかが救命のカギとなっています。

心臓突然死から1人でも多くの命を救うため、2004年7月より、医師や救急救命士だけでなく一般の人でも自動体外式除細動器（Automated External Defibrillator:AED）が使えるようになりました。AEDは電気ショックを与えて心室細動を治療する装置で、音声ガイドに従うだけで誰でも簡単に操作することができます。アメリカでは、すでに一般市民によるAEDの使用が救命率の向上に大きな成果を上げており、日本でも、多くの人が集まる場所へ設置が進んでいます。

目の前で誰かが倒れたら・・・まず救急車！すぐAED!!

倒れている人を見かけたら、意識と呼吸があるかを確認し、なければ119番通報で救急車を呼び、近くにいる人に声をかけて、AEDを持ってきてもらいます。AEDが届くまでは、心肺蘇生法（人工呼吸と心臓マッサージ）を行ってください。AEDが届いたら、音声ガイドに従って操作し、心停止者の胸を裸にして電極パッドを重ならないように貼ります。このとき、貼り薬や金属のアクセサリーは取り外し、胸毛が多い場合はパッドを貼って勢いよくはがし、胸毛を取り除いてから、新しいパッドを貼ります。

AEDは自動的に心電図を解析し、電気ショックが必要か判断して、音声ガイドで知らせてくれます。電気ショックが必要といわれたら、必ず誰も心停止者に触れていないことを確認してから、通電ボタンを押します。救急隊員が到着するまで、電極パッドはそのままにしておきましょう。

AED なんでもQ&A

Q:心停止でない人に使うとどうなるの?
A:通電ボタンを押しても、電気ショックは作動しないようになっています。

Q:濡れていても使えるの?
A:電気ショックが伝わりにくくなります。パッドを貼る前に胸の汗や水をふき取ってください。

Q:除細動が必要ないといわれたら?
A:救急隊員が到着するまで、電極パッドははがさないでください。咳や体動がなければ心臓マッサージを、正常な呼吸がなければ人工呼吸を続けます。

Q:ペースメーカーが入っている人に使っても大丈夫?
A:2.5cm以上離してパッドを貼るようにしてください。

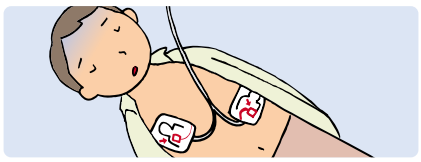
Q:AEDを使っても救命できなかったら?
A:救命のためであれば、AEDは誰が使っても構いません。もし救命できなくても責任は問われません。

知っておきたいAEDの使い方

① 意識と呼吸があるかを確認する

② 救急車を呼び、AEDを手配する

③ 図示された通りに、電極パッドを貼る



④ 通電ボタンを押し、電気ショックをかける

日本心臓財団とは

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、1970年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されています。どうぞ皆様のご協力をお願い申しあげます。

財団法人 日本心臓財団
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル
☎ 03-3201-0810
ホームページ：http://www.jhf.or.jp/

後援：日本医師会